春の小牧山

西町の稲荷堂

神明社秋葉祭

小牧の文化財地図 訪ね歩きマップ 小牧地区

平成29年3月31日

編集／愛知文教大学地域連携センター

小牧市（小牧地区）文化財地図作成委員会　委員長：篠田　徹

委　員：加藤憲吾、酒向道夫、西川菊次郎、水野　弘

協力者：鈴木功治、三井得三

事務局：准教授兼センター長 稲垣知子、　事務長：唐松健夫

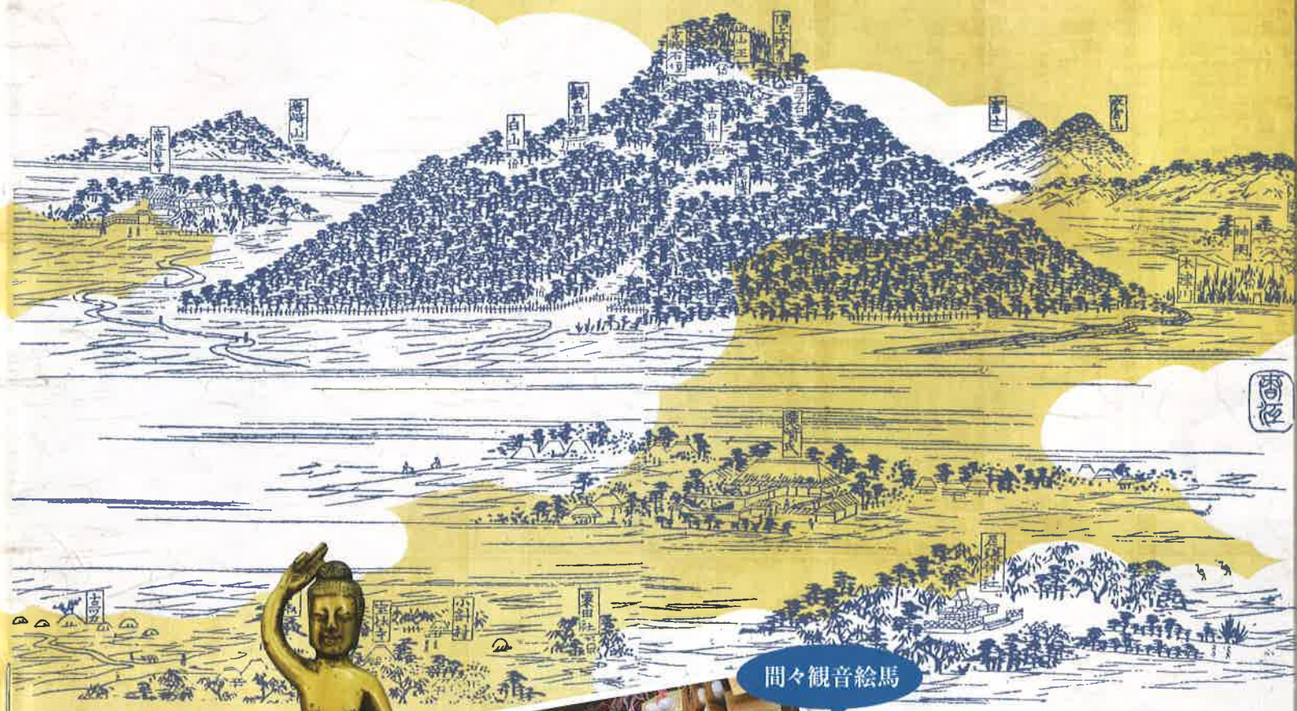
発 行／小牧市教育委員会　小牧市堀の内三丁目1番地

Komaki

小牧の文化財地図

訪ね歩きマップ

小牧地区



［尾張名所図会より］

正眼寺誕生仏

間々観音絵馬

屋根神様（岸田家）

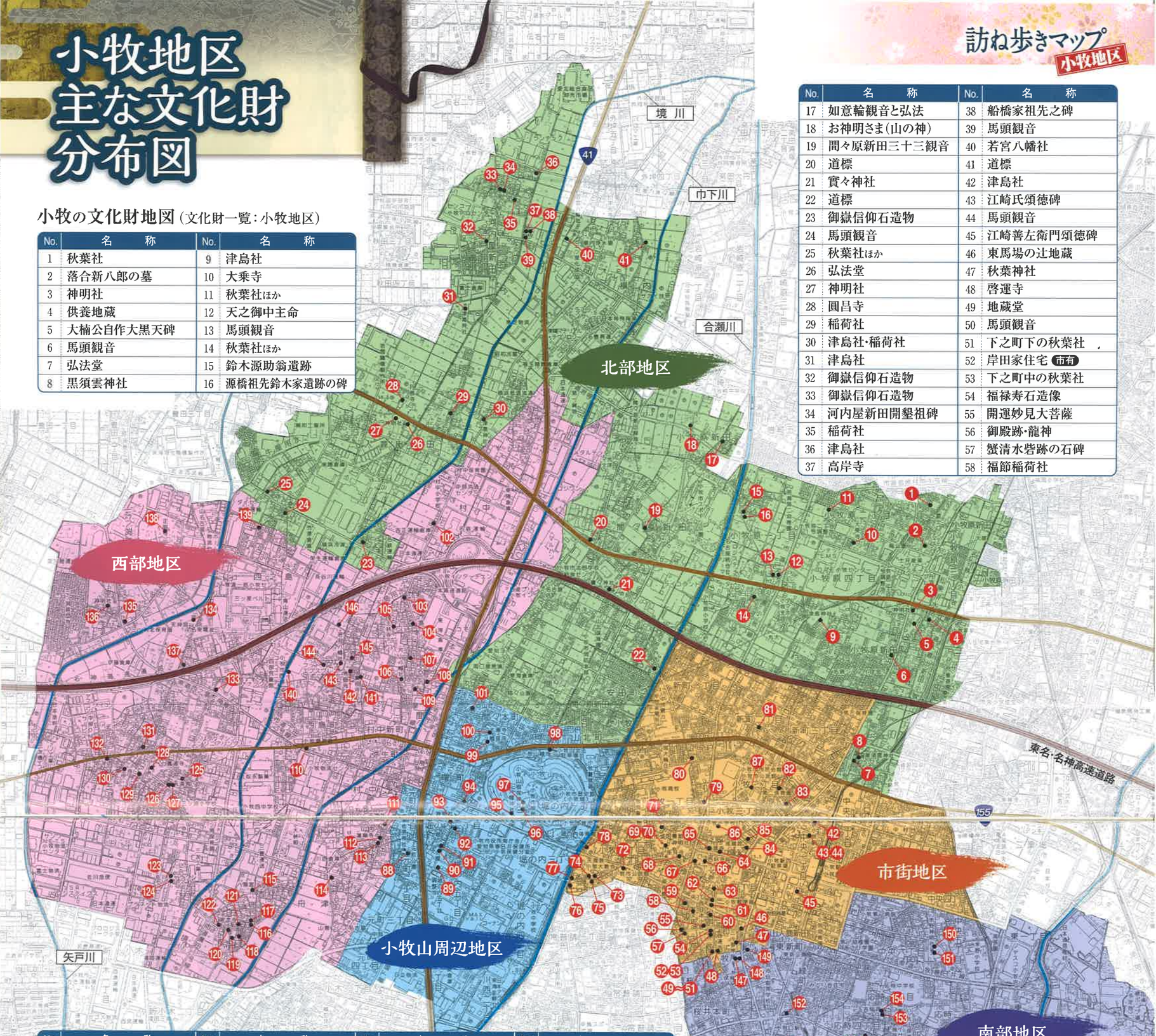
小牧市教育委員会

小牧地区 主な文化財分布図

小牧の文化財地図（文化財一覧：小牧地区）

No.	名　称	No.	名　称
1	秋葉社	9	津島社
2	落合新八郎の墓	10	大乗寺
3	神明社	11	秋葉社ほか
4	供養地蔵	12	天之御中主命
5	大楠公自作大黒天碑	13	馬頭観音
6	馬頭観音	14	秋葉社ほか
7	弘法堂	15	鈴木源助翁遺跡
8	黒須雲神社	16	源橋祖先鈴木家遺跡の碑

No.	名　称	No.	名　称
17	如意輪観音と弘法	38	船橋家祖先之碑
18	お神明さま（山の神）	39	馬頭観音
19	間々原新田三十三観音	40	若宮八幡社
20	道標	41	道標
21	實々神社	42	津島社
22	道標	43	江崎氏頌徳碑
23	御嶽信仰石造物	44	馬頭観音
24	馬頭観音	45	江崎善左衛門頌徳碑
25	秋葉社ほか	46	東馬場の辻地蔵
26	弘法堂	47	秋葉神社
27	神明社	48	啓運寺
28	圓昌寺	49	地蔵堂
29	稲荷社	50	馬頭観音
30	津島社・稲荷社	51	下之町下の秋葉社
31	津島社	52	岸田家住宅 市有
32	御嶽信仰石造物	53	下之町中の秋葉社
33	御嶽信仰石造物	54	福禄寿石造像
34	河内屋新田開墾祖碑	55	開運妙見大菩薩
35	稲荷社	56	御殿跡・龍神
36	津島社	57	蟹清水砦跡の石碑
37	高岸寺	58	福節稲荷社



No.	名　称	No.	名　称	No.	名　称	No.	名　称
59	西町にある秋葉社	87	六地蔵	117	舟津学校跡	147	神明社（三十番神宮）
60	下之町上の秋葉社	88	須佐男神社	118	馬頭観音	148	西行法師の歌碑
61	中町下の秋葉社	89	上御園遺跡	119	土公神碑	149	道標
62	清須道起点碑	90	清須道沿いの塚	120	稲荷社	150	神明社
63	中町中の秋葉社	91	道標	121	道標・聖観音	151	妙林寺
64	戒蔵院 市彫・道標	92	馬頭観音	122	常念寺	152	普宣寺
65	西源寺	93	神明社	123	津島社・秋葉社	153	七面教会
66	西林寺	94	間々観音への案内石柱	124	地蔵堂	154	玉吉稲荷社
67	西町の稲荷堂 市建	95	愛宕社	125	願かけ地蔵	155	神明社
68	玉林寺	96	小牧山稲荷神社	126	天神社	156	宇田津砦跡
69	神明社（小牧神明社） 市有 市無	97	吉五郎稲荷神社	127	馬頭観音	157	馬頭観音
		98	道標	128	圓通寺	158	神明社
70	市神	99	龍音寺（間々観音）	129	専立寺	159	塚原嘉一頌徳碑
71	猿塚	100	大瀬寺	130	大杉さま（金毘羅社）	160	観音堂霊苑
72	西町の道標	101	白山社	131	馬頭観音	161	稲荷社・北外山砦跡
73	津田応助先生顕彰碑	102	巾下改耕碑	132	如意輪観音	162	馬頭観音
74	織田信長公勤皇碑	103	三十三観音	133	馬頭観音	163	外山神社 市考
75	臥雲句碑	104	弘法堂	134	天神神社	164	薬師寺
76	芋塚	105	玉林寺	135	馬頭観音・道標	165	敬法寺
77	西馬場の辻地蔵	106	片山八幡社	136	神明神社	166	八幡社・南外山砦跡
78	延命地蔵（身投げ地蔵）	107	神明社	137	正眼寺参道	167	稲荷社
79	交通安全地蔵	108	元宮八幡社	138	正眼寺 国重 市建	168	妙楽寺
80	姥ヶ懐古戦場跡碑	109	木遣記念碑	139	機械揚水路竣工碑	169	妙蔵寺
81	新町の津島神社	110	馬頭観音	140	猿田彦大神	170	天神社
82	片町の秋葉社	111	天神社	141	實相寺	171	三十三観音
83	上之町上の秋葉社	112	豊川稲荷神社	142	常昌寺	172	春日寺
84	上之町下の秋葉社	113	蓮華寺	143	若宮八幡社	173	天王社
85	七軒町の秋葉社	114	津島社	144	地蔵堂	174	神明社
86	小牧小学校校庭のクロマツ 市書 市天	115	八剣社	145	凉風亭伝右碑	175～207	小牧山（P14・15参照） 国史跡
		116	津島社	146	観音堂		

※名称の後にある

- 国史跡 …… 国指定史跡
- 国重 …… 国指定重要文化財
- 市建 …… 市指定有形文化財建造物
- 市彫 …… 市指定有形文化財彫刻
- 市書 …… 市指定有形文化財書跡
- 市考 …… 市指定有形文化財考古資料
- 市有 …… 市指定有形民俗文化財
- 市無 …… 市指定無形民俗文化財
- 市天 …… 市指定天然記念物

N

北部地区

東名高速道路の北側、
国道41号が中央部を南北に伸びるこの地区は、
大半が入鹿用水や新・旧木津用水などで新田開発が進んだ地区
（小牧原新田・間々原新田・入鹿出新田・横内・河内屋新田）である。
近年急速な市街地化が進む中、
地域の伝統的文化財も各所に点在しており、
古きよき小牧の面影を残している地域である。

秋葉社

落合新八郎の墓

大楠公自作
大黒天碑

神明社

供養地蔵

馬頭観音

弘法堂

黒須雲神社

津島社

大乗寺

秋葉社ほか

天之御中主命

馬頭観音

秋葉社ほか

鈴木源助翁遺跡

如意輪観音と弘法

お神明さま（山の神）

間々原新田三十三観音

道標

實々（みみ）神社

御嶽信仰石造物

津島社

河内屋新田
開墾祖碑

高岸寺

船橋家祖先之碑

馬頭観音

若宮八幡社

道標

源橋祖先鈴木家遺跡碑

道標

圓昌寺

稲荷社

稲荷社

津島社

御嶽信仰石造物

津島社・稲荷社

御嶽信仰石造物

馬頭観音

秋葉社ほか

弘法堂

神明社

8 黒須雲（くろすぐも）神社

伊勢の能褒野（のぼの）神社から日本武尊を請けてご本尊に祀っている。境内には「おはつ稲荷」がある。上新町の鎮守の宮として、地域住民に親しまれている。

10 大乗寺

黄檗宗。入鹿六人衆の一人落合新八郎の子・平大夫が寄進・創建した市内唯一の黄檗宗の寺院。山門右手に三十三観音の石仏がある

12 天之御中主命（あめのみなかぬしのみこと）

「自西院の餅つき」と言う夜中に響く音におびえて西屋敷の人々が祀った祠。岩崎山から運んだ岩がご神体になっている。

18 お神明さま（山の神）

「お神明さま」とよばれ、氏神・秋葉の神を合祀したもの。「山の神」は川西の松浦一族の守護神として祀られてきた。ここで正月明けにしめ飾りを燃やす左義長（さぎちょう）も行われていた。南西角には先祖供養の石仏（観音さま）が5体祀られている。

23 御嶽信仰石造物

入鹿出新田の御嶽講の信者の集合石碑を集めた立派な築山。御嶽神社ほか津島神社・秋葉神社・八百万神などの石碑や不動明王などの石仏がある。

28 圓昌寺

曹洞宗。もと入鹿村から入鹿池の築造により移転した由来がある。平成25年、本堂・山門を建てられた。山門内脇には、入鹿出新田村三十三観音や各地の馬頭観音像が祀られている。

32 御嶽信仰石造物

河内家の敷地内には、かつて河内家が先達として供養してきた石碑が11個並び、祈祷所としての神殿も建っている。

37 高岸寺

元真言宗。伊勢湾台風で倒壊後は無住となり、河内屋会館や児童遊園地敷地にある。三十三観音・念仏供養地蔵・稲荷社・船橋家祖先之碑・狂俳社中の碑などが集中している。

41 道標

「あざゐ こちの みち」「ほての 一のみや みち」「施主 イハさき ふぢ口」と読める。
近くには旧全長庵があったが今は更地に寺標が残っているのみ。

市街地区

名鉄小牧駅の西側にあたる市街地区は、
江戸時代元和9年(1623)に
木曽街道整備のため尾張藩主徳川義直の命によって、
織田信長時代以降小牧山南麓に形成された町から移転してきたものである。
街道沿いに下之町・中町・横町・上之町・片町、街道の東に東馬場、
西に西馬場、横町西に寺町と区分けして、町の中心となっていった。
その後少しずつ広がっていき現在に至っている。

※48・51～54・60～64・82～85についてはP16を参照。

津島社

東馬場の辻地蔵・交通事故死供養地蔵

江崎氏頌徳碑・馬頭観音

東町にある秋葉神社

左手に御嶽信仰石塔

啓運寺

江崎善左衛門頌徳碑

地蔵堂・馬頭観音・下之町下の秋葉社

開運妙見大菩薩

御殿跡・龍神

姥ヶ懐古戦場跡碑

新町の津島神社

小牧小学校のクロマツ

小牧霊園無縁墓地と六地蔵

蟹清水砦跡の石碑

福節稲荷社

西町にある秋葉社

戒蔵院

西町の道標

西源寺

西林寺

西町の稲荷堂

玉林寺

神明社(小牧神明社)

市神

津田応助先生顕彰碑

織田信長公勤皇碑

猿塚・観音寺蔵等

臥雲句碑

芋塚句碑

西馬場の辻地蔵

延命地蔵(身投げ地蔵)

交通安全地蔵

43 江崎氏頌徳碑
昭和11年(1936)江崎健三が旧邸宅跡に公会堂を建設し、これを小牧町に寄付した。小牧町は、これまで江崎家代々の功績をたたえこの碑を建てた。昭和60年(1985)小牧駅東土地区画整理事業によりここに移転された。

44 馬頭観音
江崎氏頌徳碑の隣に馬頭観音がある。頌徳碑と共に移転されたと思われる。

45 江崎善左衛門頌徳碑
入鹿六人衆の一人である江崎善左衛門了也の功績をたたえる碑文である。元江崎家の墓があったと言われている。

48 啓運寺
日蓮宗。本殿には開運北辰尊妙見大菩薩が祀られている。門内には高札場趾の碑がある。

56 御殿跡・龍神
小牧御殿は、江崎善左衛門の蟹清水屋敷を御殿として設けたのが始まりである。藩祖義直が鷹狩りをした際、小牧山の景観と湧き水の「蟹清水」を施した庭園が大変気に入り、御殿にしたといわれている。天明2年(1782)4月御殿の一角に代官所(陣屋)が設けられた。

57 蟹清水砦跡
天正12年(1584)小牧・長久手の合戦の時、徳川方の砦があった場所である。

64 戒蔵院・道標
真言宗智山派。木造十一面観世音菩薩(火伏せ観音)が安置されている。門前には木曽街道の道標がある。

65 西源寺
真宗大谷派。境内には「国手栗崎常慶寿碑」がある。江戸時代末期、小針入鹿新田には代々医者である栗崎家があった。ここの保童丹は小児病の妙薬として知られていた。尾張名所図会に屋敷が紹介されている。

66 西林寺
浄土宗鎮西派。寺の山門は徳川家の菩提寺である建中寺の霊廟にあった門が移築されている。また、境内には2.26事件で暗殺された教育総監で陸軍大将、渡辺錠太郎の銅像がある。また、江崎家の菩提寺である。

67 西町の稲荷堂
建物は、建中寺の霊廟を移築したもの。その後、住民の願いにより豊川稲荷を勧請した。内装は当時のままである。

68 玉林寺
曹洞宗。小牧山城築城時に連歌師の里村紹巴が信長に招かれた折に宿泊したと言われている。門前に句碑が残っているが、判読は難しい。

69 神明社(小牧神明社)
祭神は天照大神。秋葉社をはじめ至る所に境内社がある。また、御神馬像や連理木のクスノキなどもある。(P17参照)

70 神明社にある市神
この石碑の裏には、寛文7年(1667)第2代藩主光友が小牧振興のため馬市を開かせたことから始まり、明治になってからも、市(一六市)が盛んであった歴史が刻まれている。

72 西町の道標
道標の脇に2つの細い道がある。一宮道と清須道の分岐点になっている。

73 津田応助先生顕彰碑
津田応助は永年郷土史家として、数多くの郷土史書を編纂した。昭和36年(1961)応助を慕う人々が発起し「象山文庫」を建設し顕彰碑を建立した。

74 織田信長公勤皇碑
津田応助が中心となって昭和18年(1943)、小牧は織田信長ゆかりの地として、この碑を建立した。

75 臥雲句碑
浮木庵臥雲は安永天明年間の尾北の俳匠である。現在松浦家の私有地にある。

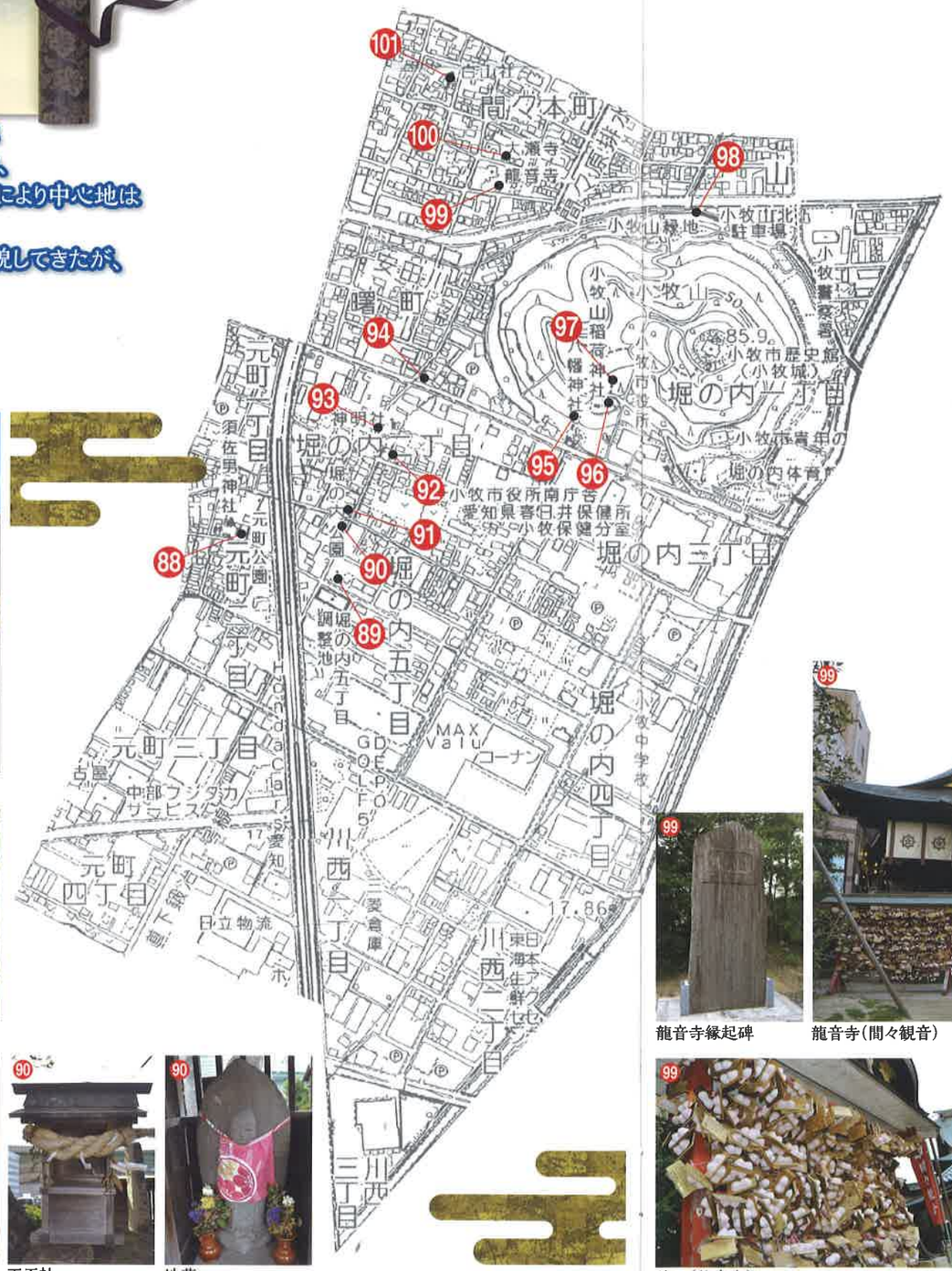
76 芋塚句碑
かつて西行法師が南外山の春日寺に立ち寄ったという伝承があり、そのゆかりによって建てられた。

86 小牧小学校のクロマツ
三本松として知られている。市内最大のクロマツである。現在市指定天然記念物になっている。また、小学校の職員室には福沢諭吉書の「身体健康精神活溌」の扁額がある。

小牧山周辺地区

江戸時代以前、
織田信長が城下町を築いたころからこの地区は
小牧地区の中心地であった。信長が岐阜に移り、
江戸時代に入り上街道整備に伴う小牧宿造営により中心地は
小牧山の東部に移った。
国道41号が開通したことにより景観は大きく変貌してきたが、
元町・堀の内等の地名にも残るように、
古き歴史がしのばれるところである。

※史跡小牧山についてはP14・15を参照。



89 上御園遺跡

信長が小牧山城とともに山の南に造営した城下町内の一角である。清須から町ごと移ってきており、御園という町名は清須から来ている。

90 清須道沿いの塚

ここは小牧から清須へ続く清須道であり信長以前は北に犬山へも続いていた旧道である。その辺にある塚には御嶽様・馬頭観音・地蔵・天王社などが祀られほとんどが江戸時代のものである。馬頭観音は国道41号沿いから移された。

91 道標

もとは90の塚の石仏群と同じようにあったのが道路の拡張の際に移ったといわれる。「左ままくわんおんいぬやま 右こまき」とあり旧犬山道と小牧道の分岐点であったことがうかがえる。 寛政11年(1799)のものである。

92 馬頭観音

神明社南の辺にあるこの観音様は道標を兼ねており、光背には「右小牧道　左まま村くわんのん」とある。

93 神明社・天保川碑文

堀之内地区の社。天保12年(1741)に木津用水から水を引いた用水ができたことや工事に尽力した人たちを称える石碑が境内に残っている。

97 吉五郎稲荷神社

小牧には多くの狐が棲息していて、その代表として吉五郎といわれた狐にまつわる伝説が伝えられている。

99 龍音寺(間々観音)

浄土宗鎮西派。昔からお乳の出にご利益のある観音様として崇められており、尾張三十三観音霊場でもあり参拝客も多い。また山門は、尾張徳川家の菩提寺建中寺より御霊屋の門を譲り受けたものである。境内には、龍音寺縁起碑があり、以前は小牧山西の旧道沿いにあったものがここに移された。

100 大瀬寺

真宗大谷派。明治期創建。篤農家であった大野瀬平が村の説教場として建てたものである。大瀬寺はその名が由来である。境内には、鵜沼の伊木城主の子孫の墓碑や名医栗崎昌慶寄進の灯籠がある。

101 白山社

間々の村社で境内社に津島社(天王社)も祀られており、毎年7月末の日曜日には津島社のちょうちん祭りが行われている。

上御園遺跡説明板

須佐男(すさのお)神社

道標

清須道沿いの塚

馬頭観音

天王社

地蔵

馬頭観音

神明社

間々観音への案内石柱

愛宕社

小牧山稲荷神社

龍音寺(間々観音)

龍音寺縁起碑

道標

絵馬(龍音寺)

龍音寺山門

白山社

吉五郎稲荷社

大瀬寺

大瀬寺灯籠

西部地区

この地は小牧山の西方に位置する地区
(三ツ渕、三ツ渕原新田、西之島、舟津、村中)である。
土地は北から西南に傾斜し、段丘下の低湿田園地帯であるが、
正眼寺を中心に文化財が点在する地域でもある。
明治後半から大正時代には大規模な耕地改良も行われ、
昭和40年代に名神・東名高速道路ができると物流の拠点として
工場進出が活発となり変貌をとげ、人口も激増し現在に至っている。

巾下改耕碑

三十三観音　津島社他

弘法堂

玉林寺

片山八幡社

神明社

元宮八幡社

木遣記念碑

馬頭観音

天神社

豊川稲荷神社

津島社

蓮華寺

津島社

舟津学校跡

土公神(どくじん)碑

八剱社

馬頭観音・道標

稲荷社

道標・聖観音

猿田彦大神

聖観音

實相寺

若宮八幡社

地蔵堂

涼風亭伝右碑

観音堂

機械揚水路竣工碑

馬頭観音

正眼寺

常昌寺

大杉さま(金毘羅社)

神明神社

正眼寺参道

願かけ地蔵

馬頭観音

天神神社

馬頭観音・道標

津島社・秋葉社

常念寺

地蔵堂

天神社

圓通寺

専立寺

馬頭観音

如意輪観音

102 巾下改耕碑
大正8年(1919)9月に完成した記念の改耕碑。3郡5ヶ町村14大字に及ぶ事業であった。

103 三十三観音
仏像は3段に並ぶ。北側に天神社・津島社・雷神を祀る。東向きの馬頭観音は道標を兼ねる。

105 玉林寺
曹洞宗。織田信長の時代には小牧山南西の麓にあったが、元和9年(1623)小牧宿への移転にともない分割された。

106 片山八幡社
永禄7年(1564)織田信長の家臣、池田信輝公より本殿寄進の棟札がある。

110 馬頭観音
道標。一宮へ北まわりか南かを差し示す。今も昔も交通の要所であり、以前は交差点の西側にあった。

113 蓮華寺
天台宗。観音堂として始まる。明治元年(1868)の入鹿切れの後、巾下地区の移転計画の中、現在地へ移る。

114 津島社
巾下川を見下ろす。御嶽信仰石造物も祀る。

118 馬頭観音
津島社も祀る。道標は自然石で今は脇に置かれている。

121 道標・聖観音
道標仏に「右小牧　左正眼寺」、聖観音台座にも同様の文字がみえる。

122 常念寺
浄土真宗本願寺派。明応6年(1497)創建。永禄年間に岩倉村より移る。一光三尊阿弥陀如来が伝わっている。

123 津島社・秋葉社
庚申塚・地蔵堂も祀られている。

125 願かけ地蔵
道標。地蔵の台に「正眼寺是ヨリ八丁」と刻まれている。

127 馬頭観音
道標。天神社の隣、光背に「右正眼寺道」「たつみなごや道」と刻む。「折立」の観音様と親しまれている。

128 圓通寺
曹洞宗。元亀3年(1572)の創建。三ツ渕小学校発祥の地。三十三観音が祀られている。

129 専立寺
真宗大谷派。明応4年(1495)の創建。山門の軒丸瓦は、徳川家の三つ葉葵の紋となっている。

130 大杉さま(金毘羅社)
天神神社があったという。御嶽信仰石造物も祀られている。

134 天神神社
慶長17年(1612)蜂須賀家の寄進を受けたという。鳥居の脇に正眼寺参道の碑がある。

138 正眼寺
寛永6年(1629)尾張曹洞宗の僧録を申しつけられ、元禄2年(1689)には中島郡下津(現一宮市丹陽町)より移る。国指定の銅造誕生仏や市指定の無縫塔を所有する。

140 猿田彦大神
猿田彦大神の隣に松山大神があり、道を隔て聖観音の祠がある。

141 實相寺
日蓮宗。南北朝時代創建。大山廃寺末寺と言われている。

142 常昌寺
曹洞宗。永禄5年(1562)創建。陶製の長寿観音菩薩や三十三観音がある。

143 若宮八幡社
創建は正保3年(1646)と伝えられる。

145 涼風亭伝右(碑)
平手伝右衛門は明治期、境村の村長を務め、仕事の傍らに短歌や俳句を学び教え、弟子達が碑を建てた。

南部地区

小牧市の南部に位置し、
江戸時代には、上街道が通るようになり、
小牧宿の助郷村のひとつとして人々の往来も増えた。
明治の町村制施行時には
北外山・南外山・北外山入鹿新田の
三村が合併して外山村となる。
近年市街地の拡大で急速に変貌しつつある。

147 神明社(三十番神宮)

148 西行法師の歌碑

149 道標

150 神明社

151 妙林寺

151 鐘つき大黒天(妙林寺)

152 普宣寺

153 七面教会

156 宇田津砦跡

154 玉吉稲荷社

155 神明社

157 馬頭観音

158 神明社

159 塚原嘉一頌徳碑

160 田中寿美子先生墓

160 愛知角力追善記念碑

161 稲荷社

161 北外山砦跡碑

162 馬頭観音

163 外山神社

163 集合石碑(外山神社)

164 薬師寺

164 長谷川豊筆塚(薬師寺)

164 東京力士 北山庄五郎の墓(薬師寺)

165 敬法寺

168 松岡友孝歌碑

166 八幡社

166 南外山砦跡碑

167 稲荷社

168 妙楽寺

169 妙蔵寺

171 三十三観音

170 天神社

172 春日寺

173 天王社

174 神明社

147 神明社(三十番神宮)

地元では「おばんじん」と呼ばれ、親しまれている。日蓮宗講中の番神堂として創建され、30の神様が鎮座されていたと言われる。昭和28年(1953)神明社の祭神を番神社として合祀した。

148 西行法師の歌碑

桜井会館前に「桜井」の地名の元と言われ、地元の人が建てた、西行法師の歌碑「小芹つむ沢の氷のひまたへて春めきそむる桜井の里」がある。

151 妙林寺

日蓮宗。平成15年(2003)新本堂落成。本堂脇には、高さ4.5mで背後に釣り鐘のある石造の大黒天がある。

154 玉吉稲荷社

慶応3年(1867)に、日本稲荷総本宮の伏見稲荷から稲荷大明神を授かり、祀ったと伝えられている。

156 宇田津砦跡

小牧・長久手の合戦の折、徳川方が築いた砦の1つである。現在は住友理工の工場敷地内で管理されている。

158 神明社

かつては大きな神社だったが、明治期外山神社に合祀されたが、その後再興された。平成28年、区画整理に伴い現在の地に新たに建てられた。

161 稲荷社

区画整理により、近くにあった稲荷社・北外山砦跡碑・小川芳次郎顕彰碑を一ケ所に集め祀られている。

162 馬頭観音

交通事故が多発し死亡者が出た。近くにあった馬塚の祟りを恐れ、死者を悼み昭和33(1958)年に、地区住民の寄付により祀られた。

163 外山神社

拝殿や社務所は、昭和34年(1959)の伊勢湾台風で倒壊し、その後現在の形に復興された。大正4年(1915)に東隣の畑から県内最古級と言われる銅鐸が偶然発見された。<トピックス参照>
この地域は、御嶽信仰の覚明誕生講に所属していて、境内には霊神を祀る碑が14基集められている。

164 薬師寺

曹洞宗。瓶薬師と人々から呼ばれ親しまれている。本堂の裏手に、地元出身の東京角力として活躍した北山庄五郎の墓がある。また、外山地区の子弟教育に功績のあった長谷川豊の筆塚がある。

166 八幡社

八幡社の創建は古く、文保2年(1318)と伝えられる。日蓮宗の僧日澄が隣の妙楽寺を建立する時、寺の鎮守として社を勧請したと伝わっている。東側の土手は南外山城の土塁の名残と言われ、砦跡碑が建てられている。左奥には、稲荷社が祭られている。

168 妙楽寺

日蓮宗。日澄上人が南外山で亡くなられ、その後荼毘にふされ、現在この寺のお堂に遺骨が納められている。本堂の裏手には、歌人でもあった29世住職、松岡友好の歌碑がある。本堂裏手の日澄堂には、県下で唯一欠損なき室町時代の石造の宝塔が残されている。

170 天神社

石柱の柵に囲まれるように本殿があり、旧外山村で一番古いお宮と言われている。津島社の祠と天神社の祠があり、天神社の祠は覆い屋根が付けられている。境内には、南外山の戸長だった、鈴木勇右衛門の功績をたたえる頌徳碑が建てられている。

171 三十三観音

以前、屋根付きの小堂の中に36体の石仏が納められていた。区画整理に伴い、現在は近くの霊園の北西の一角に移されている。

172 春日寺

曹洞宗。寺の名が地名になっている。西行法師の伯父にあたる恭栄和尚により草庵が造られた。江戸時代に春日寺として再建された。西行がこの地に立ち寄ったという伝承があり、西行堂跡の石碑が庭の奥に建てられている。

174 神明社

拝殿の奥に神明造りの本殿がある。創建は、寛文7年(1667)と伝えられている。境内社として、御嶽社・弁天社が祀られている。

史跡 小牧山

永禄6年(1563)織田信長は小牧山に築城した。
それは、信長自らの計画による最初の城であり、
主郭部分にはじめて石垣を使用したり、
その威容を見せるために石垣を三段にしたりと画期的な城で、
まさに近世城郭のルーツともいえる城であった。
また、天正12年(1584)の小牧・長久手の合戦の際、織田信雄・徳川家康軍の
主陣地であったことから、徳川家とつながりの深い小牧山でもある。
小牧山に限らず、市内には徳川家ゆかりの地が各所に存在する。

城下町から大手口への道跡

小牧公園碑

大手口

国指定史跡碑

忠魂碑

徳川源明公の碑

復元土塁(旧市役所本庁舎)

御幸橋

虎口跡

篤志顕彰之碑

青年の家

創垂館

兵隊道

桜の馬場

空堀跡

大手道

徳川義親公銅像

主郭地区

小牧市歴史館

御野立聖址

石垣

曲輪跡

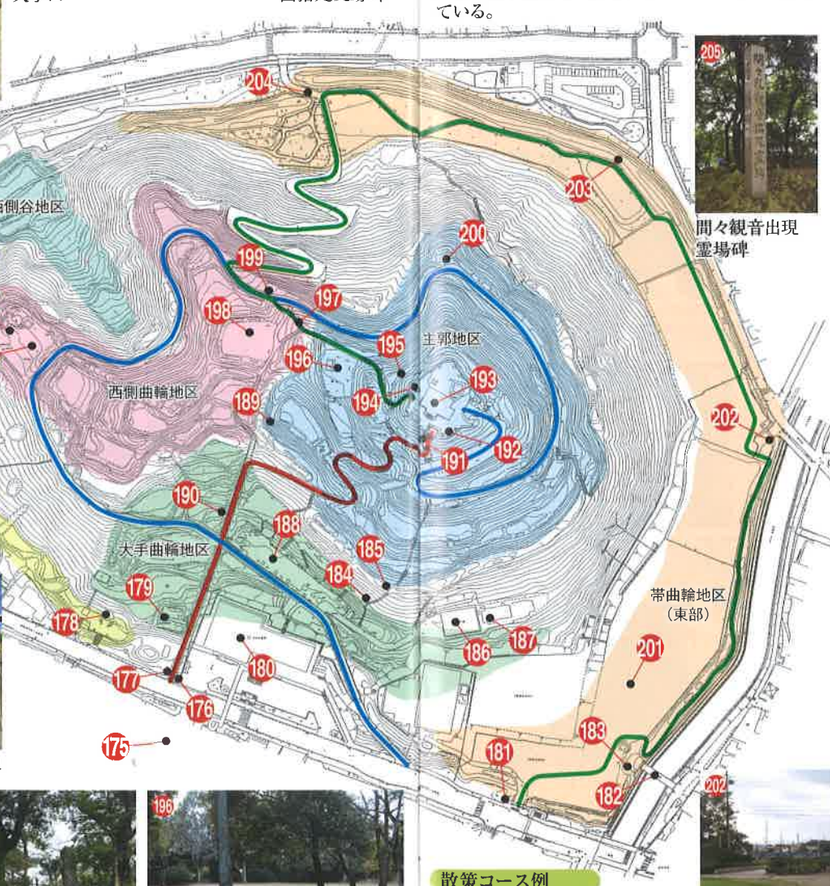
土橋跡

さくらの園

市の木タブノキ

虎口跡

帯曲輪



間々観音出現霊場碑

虎口跡

土塁断面展示施設

搦手口(虎口跡)

観音洞

防空壕跡群

175 城下町から大手口への道跡
市役所本庁舎1階フロアに北にのびる黒灰色のラインがある。信長時代、城下町から大手口に通じる道があった痕跡を残すために引かれている。

176 大手口
城の正面入り口である。ここにも虎口があったといわれている。

177 小牧公園碑
明治21年(1888)に県の公園となった記念に建てられた碑である。

178 忠魂碑
珍しい砲弾型の忠魂碑。大正9年(1920)に建立されている。

179 徳川源明公の碑
尾張徳川家菩提寺建中寺より譲り受けたもので、9代藩主源明公は尾張藩中興の祖といわれる。

181 国指定史跡碑
小牧山が国指定史跡となった昭和2年(1927)に建てられた。元は御幸橋近くに建っていたものを、近年現在地に移設させた。すぐ近くには山全体を囲むように築かれた土塁が見られる。

182 御幸橋
昭和2年(1927)この付近で行われた陸軍大演習の時に小牧山山頂にて天皇が統監されることになり、その際馬で山頂まで行けるよう建造された橋である。当時は木造であった。

183 虎口跡(200・202～204)
城の入り口には、簡単に侵入できないようにクランク状の道と枡形がつくられている。小牧山城にも入口や山中の各所に虎口があったといわれる。

184 篤志顕彰之碑
小牧山は、昭和5年(1930)、尾張徳川家より小牧町に寄贈していただいたものである。その時当主であった義親公の篤志を顕彰するために、昭和40年(1965)になって、市が建てたものである。

185 兵隊道
戦時中、銃後守備のため在郷軍人らが敵襲をいち早く知らせるため山頂で監視していた。その時山頂への上り下りを急ぐため作った近道である。

187 創垂館
明治期県立公園となり一般公開され、県の発案で明治21年(1888)に山頂近く(196の箇所)に創設された。その後、現在地に移設されている。

188 桜の馬場
中腹部の曲輪跡。現在は花見客でにぎわう名所となっている。

191 徳川義親公銅像
小牧山を小牧町(当時)に寄贈されたことをはじめ小牧に縁の深い尾張徳川家19代当主である。

192 主郭地区
いわゆる本丸を含む城郭の中心部で、近年の発掘調査で次々と新しいことが明らかになってきている。

193 小牧市歴史館
小牧山のことだけでなく、市の歴史がわかる博物館的な施設である。名古屋市の篤志家(平松茂)により、昭和43年(1968)に完成した。

194 御野立聖蹟碑
昭和2年(1927)の陸軍大演習の際に天皇がここに立って統監されたのを記念して建てられた。

195 石垣
信長が築城した際の、本格的な石垣の跡が主郭付近には多く現存している。

198 さくらの園(曲輪跡)
伊勢湾台風により小牧山もかなりの木々が倒れ、その整備の一環で多くの桜が植えられている。

201 帯曲輪地区
山の東側を囲むように広い曲輪が続いている。帯曲輪(おびぐるわ)と呼ばれ、特にここは特別広く堀や井戸跡もあり、信長の居館であったといわれる。

204 搦手口(虎口跡)
大手口に対し裏側の入口だった所。

206 観音洞
間々観音のもととなった観音出現の伝説が残るところである。

207 防空壕跡群
小牧山南西の山すそには終戦近くに多くの防空壕が造られた。かなり奥まで掘られ、中は横につながっていたといわれ、単なる避難壕でなく特別なものであったともいわれる。現在は、何ヵ所かで陥没したところがあり危険で、安全対策として柵で囲われている。

小牧城下町

信長は居城となる城を築いただけでなく、清須から街ごと小牧山南麓に移し、計画的な城下町を造営した。その規模は、東西1km南北1.3kmほどで、居住地は武家地と職人地とを分け、職人も職種ごとに決められた区域に集められていた。職人地の街割りをみると縦横に整備されたもので、道に面して短冊状に細長い家屋が並び、背割長屋形式で生活排水路も整備されていた。

上街道 小牧宿

この街道は、元和元年(1615)尾張藩祖徳川義直が、幕府から木曽山林の領有を認められたため、元和9年(1623)に整備が行われ、小牧宿ができあがっていった。参勤交代の折には、この街道を利用して、名古屋から中山道へと向かった。このため、木曽街道とも呼ばれた。

啓運寺境内にある木戸高札場跡石碑

啓運寺の山門をくぐると、左手にこの石碑がある。この付近に高札場があった。江戸時代、小牧宿の入り口にあたる寺の南方に代官所からの御触書が建てられていたことが記されている。

下之町下の秋葉社

岸田家と下之町中の秋葉社

啓運寺から北へ100m歩くと、木造の古い建物がある。これが、脇本陣の岸田家である。江戸時代の宿場町には、藩の要職にあった人達の、宿泊や休憩所として設けられたのが本陣であり、それを補佐するのが脇本陣である。

福禄寿石像

岸田家の北隣にこの石造がある。元々は小牧御殿(代官所)にあったとされ、平成14年(2002)に移築された。

七軒町の秋葉社

上之町下の秋葉社

上之町上の秋葉社

片町の秋葉社(左)
おかちん様(右)

中町中の秋葉社

下之町上の秋葉社

中町下の秋葉社

清須道起点碑

清須や一宮へ向かう起点の一つになっている。さらに西へ進むと西町の道標と出会う。

戒蔵院前の道標

上街道の曲がり角に位置する道標で、「南名古屋、東木曽海道、犬山道、西一の宮、つしま、清須」と刻まれている。

各町内にある秋葉社

町内各所にあるこれらの秋葉社は、町内を火災から守る火除けの神である。地元では屋根神様として親しまれている。

小牧神明社 三大祭

小牧神明社は、永禄6年(1563)織田信長が小牧山に築城の折、小牧山鬼門鎮守の神として、清須にあった御園の神社から分祀したのが創建であり、「駒来神社」として名付けられた。天正12年(1584)の小牧・長久手の合戦では、小牧山に布陣した徳川家康や織田信雄も崇敬していたといわれている。

この神明社の三大祭は、江戸時代に入ってからの祭であり、特に春祭、秋祭は尾張徳川家との関わりが深く様々な言い伝えが残されている。

春祭

<4月第2日曜日>

この祭は初代尾張藩主徳川義直が、小牧に来遊した折に、牡丹の造花数十本を下賜し、子ども達に持たせて歌舞謡踊をさせたことが起こりだと伝えられている。その後、寛文7年(1667)、2代藩主光友の時、二両の山車が造られ、子ども歌舞伎の奉納は明治以降も続けられた。その後、上演する子どもも少なくなり、昭和に入ると歌舞伎にかわり日本舞踊が演じられるようになった。なお、山車は幾度か修繕が行われたが、老朽化が進み、二両あった山車は一両に組み立て直されて、現在に至っている。

子ども歌舞伎があった頃

山車が二両あった頃

現在も行われている日本舞踊

秋葉祭

<8月20日前後の土曜日(宵山)日曜日(本祭)>

秋葉社は火伏せの神であり、宿を火災から守ることを祈願した祭である。山車は、天明年間(1781~1789)に、中町在住の成田屋又七が発起したと伝えられている。その後山車は四両となり、現在に至っている。

1日目の宵山は、提灯を付けた白幕の山車が上街道の各町内を練り歩き、一度ラビオ南の四つ角で合流し、また各町内に戻る。

2日目の本祭では、提灯を外し赤幕の山車となり、デク(からくり人形)が各屋根神様の前でからくりを披露しながら練り歩く。その後神明社に向かい、秋葉社の前で四両が揃い、神事の後祭りが終わる。

<宵山>ラビオ前で山車が揃う

秋葉祭<神明社での本祭>

<本祭>
秋葉社前でからくりを披露しながら神明社に向かう

秋祭

<10月第2日曜日>

馬祭とも呼ばれる秋祭りは、初代義直が愛でていた猿の飼育を江崎家に託し「小牧猿」と呼んでいたが、その後猿が死に、その死を悼み義直自らが猿を描いて小牧村に贈ったと言われている。さらに、馬を飾るために使われる五本棒も藩主義直から賜ったものと伝えられ、「お馬に付ける塔」「オマント」とも言われようになった。

江戸時代、藩祖から賜った猿の旗を先頭に五本棒を付けた馬が繰り出し、熱田神宮まで参拝していたが、その威光をかさに、かなりの狼藉があったらしく、後に禁じられている。戦前まではかなりの馬が出ていたが、年々馬の数が減少していき、現在では東町から一頭、厄年にあたる年代の男達が一頭出して合計二頭の馬が出ている。厄年の男達は、狼藉をはたらいた頃の姿を再現して、顔に派手な化粧をしたり、女性物の着物を着て練り歩く。

また、各町内では、子ども達が獅子を先頭に町内を練り歩き、その後神事が行われ、祭は終わる。

五本棒を付けた馬が町を練り歩く

猿の旗を先頭に町を練り歩く

今に残る猿塚

各町内の獅子頭が神明社に奉納される

小牧地区 トピックス

竹藪から掘り出された銅鐸 ～北外山銅鐸出土の逸話～

今から100年ほど昔の大正4年の話である。当時、北外山青年団の若手数人で、溝を掘っていた。外山神社の東隣には孟宗竹（もうそうちく）の藪があり、竹の根がお宮さんの方に入って来ないようにするためである。境界の所をツルハシで深さ40cmほど掘り起こすと、不思議な物が出てきた。「そんな物を家に持って帰ると罰が当たる」と言って皆で大騒動になった。それ以来村の宝物としてお宮総代が代々受け継いで保管してきた。小牧市内から出土した銅鐸はこの1点だけで、学術的にも貴重な資料であり、昭和53年3月25日に、市指定有形文化財考古資料に指定された。出土時に、欠損を生じていたため、青銅製の鐸身部分の強度が弱くなり、外山神社として維持管理ができなくなり、平成19年に小牧市に寄付された。そして、現在は保存処理を行い小牧市歴史館に展示されている。

ふるさとを開いた先祖をしのぶ

小牧北部は「新田」が地名につく特異な地域が多い。江戸時代の寛永年間（1624～1645）に、入鹿池や新・旧の木津用水ができて、急速に開けた地域で、東から新木津用水・原川・合瀬川（古木津用水）・巾下川・境川・河内屋川などがほぼ南北に流れている。かつて豊かな水田地帯が広がっていたが、現在は工場や倉庫などが林立する市街地に変貌した。いわゆる「入鹿六人衆」（江崎善左衛門了也・落合新八郎・鈴木作右衛門・鈴木久兵衛・丹羽又助・船橋仁左衛門）はその開拓の功が認められて、尾張藩から入鹿新田頭（いるかしんでんがしら）の世襲と「除地（よけち）」という10石の免税地が与えられた（写真は河内屋新田の船橋家の除地）。江崎家㊺（小牧中央）・落合家❷（小牧原新田）・船橋家㊳（河内屋新田）や入鹿池の河内屋堤の難工事を成功させた河内屋甚九郎家㊹（河内屋新田）らの先祖を顕彰する碑や墓地が建てられているので訪ねてみたい。このほか小牧原の開墾を進めた鈴木源助⑮（上末）や井戸田喜之助（野口）などの碑や伝承が残っていることも郷土開拓の歴史を知る上で見逃せない。

新婚さんの屋敷に石仏を投げ入れて祝う風習

河内屋新田の三十三観音（高岸寺内）

小牧の各地にみられた風習に、婚礼の夜、婚家の庭先や部屋の中まで、三十三観音や六地蔵などの石仏を村の若い衆が持ち込む風習が昭和20年代頃まであった。この風習は二重堀・入鹿出新田・岩崎原・横内・河内屋新田・本庄など北部に多く見られた。婚礼のあった家では翌日にそれらの石仏を元もとあった場所へていねいに返し、ぼた餅などを供えてねぎらう習わしがあった『小牧市史』。現在残る河内屋新田の三十三観音（写真）は、一部欠けていたり並び順がばらばらになっているのは、そうした風習を物語っているように見える。

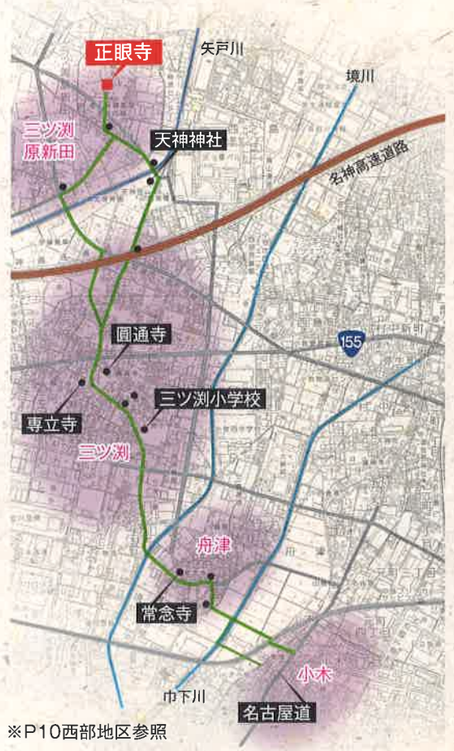
尾張藩主の菩提寺・建中寺から移築された唐御門・御霊屋（西町の稲荷堂）

西林寺と間々観音の山門と西町の稲荷堂は、いずれも尾張徳川家の菩提寺である名古屋市東区にある建中寺の墓所に建てられた唐御門2つと御霊屋の1つを移築したものである。天明年間（1781～1789）の建中寺大火のあとまもなく再建されたもので、唐御門は、いずれも総ケヤキ切妻造りである。唐戸の上部や梁の各所には徳川家の三葉葵の紋が見られる。西林寺山門（写真）㊻は昭和元年（1926）、間々観音山門㊾は昭和4年（1929）に移築された。西町の稲荷堂㊼は建中寺にあった御霊屋の1つを移築したものである。稲荷堂と呼ばれるようになったのは、明治34年（1901）3月5日に豊川稲荷より勧請されたためと言われている。

正眼寺道をたどる

昔から様々な願い事を叶えるために古寺名刹や神社を訪ねる風習がある。小牧周辺でも内津観音・間々観音など多くの人々が参詣している。三ツ渕の正眼寺も北尾張に多くの末寺をもつ本山であり、尾張一円から多くの人の正眼寺詣でにぎわったところである。交通の発達により道路が様変わりしているが、田園風景が残る小牧市の西部（巾下地区）には旧道が残り正眼寺道の名残を見ることができる。ここでは、名古屋方面からの正眼寺道をたどってみよう。

舟津の巾上地区から小木を通り名古屋方面に続く道路を昭和30年代ごろまで「名古屋道」と呼んでいた。右図のようにその名古屋道から巾下地区の舟津地区へ入り、三ツ渕地区を北上し三ツ渕の北にある正眼寺へと向かったのである。道沿いには、「右こまき道左正眼寺道」「正眼寺是より八丁」「左なごや道」等の文字が刻まれた江戸時代からの道標・地蔵・馬頭観音がいくつか見られる。こうした文化財を見つけながら正眼寺道をたどることで往時の旅人たちをしのんではどうだろう。



※P10西部地区参照

道標を兼ねた馬頭観音

舟津村入口付近の道標

小牧・長久手の合戦 ―徳川家康・織田信雄連合軍の砦跡

天正12年（1584）に起きた小牧・長久手の合戦は、小牧の地で徳川家康・織田信雄連合軍と羽柴（のちの豊臣）秀吉軍が対峙したことが始まりといわれている。味岡地区に豊臣方が陣を配したのに対し、小牧地区には徳川方の砦が造られた。その砦跡を巡るのも一興である。図を見てもわかるように、北からの秀吉軍の攻撃を迎え撃つように本陣である小牧山城から東南東へ陣を配していたことがよく分かる。

小牧山城

宇田津砦跡

北外山城跡

蟹清水砦跡